

第3学年 音楽科学習指導案

日 時 平成19年7月3日(火)5校時
学 級 3年2組(男子12名 女子10名 計22名)
指導者 伊藤 典子

1. 題材名 「日本の歌に親しもう」

2. 題材について

(1) 題材について

本題材は三年間培ってきた歌唱力を生かして、日本の愛唱歌といわれている曲に親しむものである。そのために、生徒一人一人が曲に対するイメージをもち歌詞の内容や曲想を味わいながら、その曲にふさわしい歌唱表現の工夫をする取り組みを考えた教材である。学習指導要領2,3学年の目標である「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。」に義務教育を終えようとしている3年生が「日本の歌」のよさに迫るものである。学習指導要領の内容A表現であるア「歌詞の内容と曲想」イ「美しい言葉の表現」キ「旋律とリズムの働きを生かした表現」ク「速度、強弱による曲想の変化」の4つ中から選択して歌唱力の向上に繋げていくものである。

1年生から教科書にある「日本の歌」を欠かさず歌唱や鑑賞を通して一通りは学習している。その内容は、作詞家、作曲家の意図を考えたり楽曲の分析を学習したことはなく浅いものである。今回、生徒が歌に対する思いをもつことは「日本の歌」を身近に感じ取ること、日本独特の詩情溢れる「歌」を、愛する心を育てるものである。より深く「日本の歌」を考えていくために、語感や言葉の抑揚を生かした表現ができる能力を育てることに重点を置いている。その表現の工夫を学習することは、今後の合唱曲を進めていく時に、表現の幅がさらに広がりをもつことと確信している。

(2) 生徒について

この学級の生徒は合唱活動を積極的に取り組むことができ、音楽を聴いたりすることが好きである。3年生になり日本の歌曲「花」を二部合唱で歌い高音部、低音部どちらの表現もすることができる。この曲を通して、詩の意味や作曲家の意図としていることなどを深く考え、表現に生かそうとすることができた。今回は、更に生徒自身が曲に対する思いをしっかりとつかみそれを自分の声で表現工夫する活動ととらえている。

(3) 指導について

「日本の歌」をするにあたって、生徒が抵抗なく取り組める曲(1,2年での習得曲)や今まで聴いたことがある曲を教材とし、情緒や詩情の表現が理解しやすいものを選択した。また、歌う曲は生徒が表現したい曲を選択するものとしたい。表現方法も歌唱力のある生徒には独唱をさせたり、歌に自信の持てない生徒にはグループ練習を取り入れたりして、学級での生徒間のかかわり合いを大切に考えた授業の組み立てをしたい。また、互いの歌を発表したり、評価したりするような場面を多く設定して関心・意欲のみならず感受の力も深めていきたい。楽曲の背景や詩情を感じ取る資料を提供し、音楽的要素などを調べたりと表現の活動に生かすための工夫もしたい。また、歌唱力アップのために、曲に応じた発声が少しでもできるように一人一人の歌にアドバイスや支援をしていきたい。

3. 題材の到達目標

(1) 音楽への関心・意欲・態度

歌詞の内容と曲想、言葉の抑揚、旋律とリズムの理解、速度と強弱による曲想の変化などのかかわり合いに関心を持ち、自己のイメージを広げて歌唱表現をしようとしている。

(2) 音楽的な感受や表現の工夫

歌詞の内容と曲想、言葉の抑揚、旋律とリズムの理解、速度と強弱による曲想の変化などのかかわり合いを感じ取り、自己のイメージを広げて歌唱表現を工夫している。

(3) 表現の技能

歌詞の内容と曲想、言葉の抑揚、旋律とリズムの理解、速度と強弱による曲想の変化などのかかわり合いを理解し、自己のイメージを広げて歌唱表現をしている。

4. 指導計画と評価方法

《観点》 = 《関：音楽への関心・意欲・態度、感：感受や表現工夫、技：表現、鑑：鑑賞》

評価の方法 時間・内容		具体の評価規準			《観点》 評価手段
		A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：Bへ達するための支援	
日本 の 歌 に 親 し ま う	1	歌詞の内容から曲想に 関心をもって意欲的に 取り組もうとしている。 ----- 歌詞の内容から曲想の イメージを感じ取って 発表できる。 <具体例> 作詞者が伝 えようとしている気持 ちが音楽の要素とどの ようにかかわっている のか気づき、発言でき る。	歌詞の内容から曲想に 関心をもって取り組も うとしている。 ----- 歌詞の内容から曲想の イメージを感じ取って いる。 <具体例> 作詞者が伝えようと している気持ちが音楽 の要素とどのようにか かわっているのか気づ くことができる。	歌詞の意味を理解す ることから曲想に関心 をもたせる。 ----- 歌詞の内容から曲想の イメージを話し合いの 中から共有させる。	《関》 観察 ----- 《感》 発言 音楽学習 カード
	2	リズム、速度、強弱 のかかり合いを感じ 取り、その表現の工 夫を積極的に考えよ うとしている。 <具体例> 音楽の要 素が作曲者の意図とし ている表現に気づき、 その考えを発言でき る。	リズム、速度、強弱 のかかり合いを感じ 取り、表現の工夫を 考えようとしている。 ----- <具体例> 音楽の要 素を理解し、作曲者 が表現したい意図を 考えることができる。	リズム、速度、強弱 のかかり合いを感じ 取るようとしている。 ----- <具体例> 音楽の 要素を理解させ、話 合いから考えるヒント をつかませる。	《関・感》 観察 発言 音楽学習 カード
		リズム、速度、強弱 のかかり合いを表現 の工夫の中に生か して歌っている。	リズム、速度、強弱 のかかり合いを表現 の工夫として歌って いる。	リズム、速度、強弱 のかかり合いの表現 を仲間と一緒に歌わ せる。	《技》 歌唱
	3	本 時（別紙参照）			
4	自己のイメージをも った表現工夫をする	歌詞の内容と曲想、言 葉の抑揚、旋律・リ ズムの理解、速度と 強弱による曲想の変 化などのかかり合 いの学習から、イメ ージをもった表現の 工夫をし、聴いて いる人に感動させる 歌唱表現をして いる。	歌詞の内容と曲想、言 葉の抑揚、旋律・リ ズムの理解、速度と 強弱による曲想の変 化などのかかり合 いの学習から、イメ ージをもった表現の 工夫をした歌唱表 現をしている。	歌詞の内容と曲想、言 葉の抑揚、旋律・リ ズムの理解、速度と 強弱による曲想の変 化などのかかり合 いを理解し、仲間 と表現の工夫をした 歌唱表現をさせ る。	《技》 歌唱発表 音楽学習 カード

5. 本時について

(1) 目標

- ア 言葉の抑揚と旋律の動きについて関心をもって取り組もうとしている。
《音楽への関心・意欲・態度》
- イ 言葉の抑揚と旋律の動きについて感じ取り、表現の工夫をしている。
《感受や表現工夫》

(2) 評価方法

《観点》 = 《関：音楽への関心・意欲・態度、感：感受や表現工夫、技：表現、鑑：鑑賞》

評価の方法 時間・内容		具体の評価規準			《観点》 評価手段
		A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：Bへ達するための支援	
日本の歌に親しもう	3	言葉の抑揚と旋律の動きに関心をもって取り組み、積極的に発言しようとする。	言葉の抑揚と旋律の動きに関心をもって取り組もうとしている。	言葉の抑揚と旋律の動きを仲間の発言から関心をもって取り組ませる。	《関》 観察 《感》 発言 音楽学習 カード
		言葉の抑揚と旋律の動きを感じ取り、語感を生かすための表現の工夫を積極的に考えている。 <small><具体例></small> 言葉と旋律のかかわりから言葉を生かす必要性に気付くことができる。	言葉の抑揚と旋律の動きを感じ取り、語感を意識する表現の工夫をしている。 <small><具体例></small> 言葉と一致した旋律を聴き取ることができる。	言葉の抑揚と旋律の動きを感じるために、仲間の話し合いから理解させる。 <small><具体例></small> 話し合いや楽譜から理解させる。	

(3) 指導の構想（研究の重点とのかかわり）

- ア 基礎的・基本的な内容の定着を図る繰り返し、振り返り学習の設定と工夫
 - ・旋律の特徴をつかむときに音楽的諸要を思いおこさせる。
 - ・言葉の抑揚やアクセント、語感を意識した鑑賞教材を聴かせる。
- イ 評価規準表を有効に活用した目標と指導と評価の一本化
 - ・具体の評価規準Bに沿った適切な学習課題を設定する。具体の評価規準Bが、まとめと音楽学習カードに反映されるように考慮する。教材の内容が学習サイクル（能動的な学び方）にあてはまるように学習活動を適切に組織化する。その際、生徒個々の意識に留意して作成する。
- ウ 学習内容を確かに定着させるための「能動的なかかわり合い」
 - ・初めに鑑賞で聴き取ったことを個人で考えさせる。その後、学級で聴き取った内容を交流させる。他の人から学んだり、アドバイスしたりすることで、より目的に合った表現の工夫ができる。
 - ・全員で一曲について表現の練習をすることによって表現の仕方を共有を図ることができる。その学習を通し、選択曲の表現の工夫に発展させたい。

(4) 展 開

段 階	学習の流れ	学 習 活 動	
	= 生徒個々の意識	生徒の活動	指導上の留意点
導 入	1 振り返り 思いだそう	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの歌を1番のみ歌う。 ある短文を読みその言葉と合っている旋律を聴き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 選択グループごとに歌う。音楽諸要素を生かした表現ができていることの確認。 短文を朗読させ、その言葉と旋律のかかわりが感じ取ることができるよう進めていく。 言葉の意味、イントネーションなど。
	2 課題把握 1時間の流れはどうかかな	<ul style="list-style-type: none"> 課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 【評価】 《関心》 観察 言葉の生かし方を学ぶことが課題であることを見つけさせる。
15分	言葉の抑揚と旋律の動きから言葉を生かした表現の工夫をしよう		
分	3 見通し確認 何を学ぶのか	<ul style="list-style-type: none"> 「赤とんぼ」を歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 録音をして言葉の抑揚がどのように表現しているのか感じ取らせる。
展 開	4 モデル理解 方法選択 どのようにすればできるのか	<ul style="list-style-type: none"> 「赤とんぼ」の範唱の歌を聴き取る。 	<ul style="list-style-type: none"> この曲の背景や言葉の意味を確認する。また、旋律ラインを詩と一致させる。
	5 個々の課題追究 よりよいものを考えたい	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の意味や作曲者の意図をくみ取って言葉がどのような働きかけをしているのか感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> 朗読を通して強調して聞こえる言葉を楽譜にチェックさせる。 なぜその言葉を強調するのか、その思いを楽譜に考えさせ、記入させる。
	6 能動的なかかわり合い たしかめたい	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに感じ取ったことを書きまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じ取り考えたことを、グループで発表させ、その後全員で交流を図る。 グループごとの発表から特に意識して伝えたい言葉を教師がまとめていく。
25分	7 課題解決 達成感 自信をもつ	<ul style="list-style-type: none"> 「赤とんぼ」の語感を生かして歌う。 独唱、重唱で歌える生徒は挑戦する 	<ul style="list-style-type: none"> 語感を生かすための表現工夫になっていない時は、発声や歌い方のアドバイスを適切に進めていく。 できれば表情にも着目したい。 数人の生徒には独唱、重唱させたい。
終	8 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 「赤とんぼ」の表現工夫をして歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 録音をし、授業の最初の歌との違いを発言させたい。
言葉の抑揚と旋律の動きは密接であり、表現の工夫には言葉を生かすことでも効果があることを知る。			
末	9 自己評価 何ができたか 何ができないのか	<ul style="list-style-type: none"> 音楽学習シートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業で言葉の抑揚と旋律の動きに気づかせ、言葉を生かすために発声や口形、子音の表現や表情も身につけていくことを話したい。
10分	10 次時予告 学習意欲 向上心		<ul style="list-style-type: none"> それぞれの曲にある「大切にしたい言葉」の語感生かした表現の工夫して、まとめの歌唱をすることを伝える。